

[特集]

患者の将来を 見据えた 実践的糖尿病診療

脱“血糖屋さん”のススメ

- [Chapter 1] 血糖値だけではない糖尿病治療の目標と実践
- [Chapter 2] 血糖値だけではないアプローチ
- [Chapter 3] 血糖値だけではない糖尿病併存症の
診断・予防・治療
- [Chapter 4] 血糖値だけではない糖尿病患者の将来を
見据えた診療
- [座談会] 膵β細胞からみた日本人糖尿病患者の
病態と最適な治療

2023年の時点で糖尿病専門医は6,773人いるのに対し、厚生労働省の「令和元年国民健康・栄養調査報告」によると、糖尿病が強く疑われる人は約1,000万人いると推計されている。このため、多くの糖尿病をもつ人は、糖尿病を専門としない医師の診療を受けていることになる。糖尿病治療の基本は食事療法、運動療法、および薬物療法により血糖値を改善することであり、約10年前の2013年に行われた第56回日本糖尿病学会年次学術集会で、合併症予防の管理目標値としてHbA1c 7%未満を推奨することが「熊本宣言2013」として示された。現在では内服薬やインスリンおよび注射剤も選択肢が広がり、糖尿病治療薬により多くの糖尿病をもつ人においてHbA1c 7%未満を達成ならびに維持できる時代となりつつある。

一方で、日本糖尿病学会より糖尿病治療の目標として、血糖値だけではなく、血圧や脂質、体重、禁煙なども含めた総合的な介入により合併症を抑制し、糖尿病がない人と変わらない生活を送れるようにすることが明確に示されている。さらに、この目標を達成するためには高齢化で増加する併存症の予防管理や糖尿病をもつ人への否定的な態度、不当な判断や偏見・差別（スティグマ）などをなくすことも必要であると提唱されている。「糖尿病診療ガイドライン」「高齢者糖尿病診療ガイドライン」「高血圧治療ガイドライン」および「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」などにおいては、糖尿病患者に対する血糖値以外の目標値も定められている。一方で、実臨床において糖尿病診療は血糖値(HbA1c)を下げておけばよいという考えが根強くあり、糖尿病を専門としていない医師だけでなく、糖尿病専門医においても、血糖値やHbA1cだけをみて、血圧や脂質、体重などをみることをおろそかにしている例も少なくない。すなわち、糖尿病診療とは血糖値のみをコントロールする“血糖屋さん”になることだと誤解されていることがある。

上記のような背景から、本特集では「患者の将来を見据えた実践的糖尿病診療：脱“血糖屋さん”のススメ」と題して、血糖値のコントロールだけではない、糖尿病とともに生きていく人の将来を見据えた糖尿病診療について、各分野の第一線でご活躍されているエキスパートの先生方に解説していただいた。なお、高血糖緊急症、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、周術期(外科手術前後)、および腎機能低下例などに関しては、速やかな糖尿病専門医への紹介が推奨されているため、あえて割愛している。糖尿病診療に携わる先生方にとって、本特集が血糖値だけではなく糖尿病診療を意識するきっかけとなり、より多くの糖尿病をもつ人に少しでも寄与することを祈念している。

白川 純

(群馬大学 生体調節研究所代謝疾患医科学分野)